

令和6年1月1日、最大震度7の巨大地震が石川県能登半島を襲い、多くの方が自然災害の恐ろしさを改めて実感しました。災害はいつでも発生するかわりません。防災の基本の考えは「自分の命は自分で守る」といわれています。そのためには災害を意識した普段からの事前の備えが大切です。いざというときに素早く避難行動ができるように、避難先や避難方法、非常時持ち出し品・備蓄品、災害発生時の情報収集手段などを確認しておきましょう。

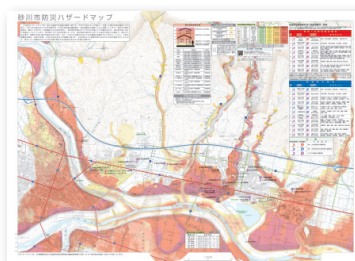
図防災対策係TEL 74-8765

事前の備えはできていますか？

「砂川市防災ハザードマップ」を確認しましょう

市内の主要河川が大雨によって増水し、氾濫した場合の浸水範囲とその深さの予想、土砂災害のおそれのある危険区域や災害時の指定緊急避難場所・指定避難所の情報がわかりやすく掲載されています。自宅周辺、勤務地などの区域にどのような災害発生の恐れがあるか確認しておきましょう。

また、ハザードマップ表紙の「避難行動判定フロー」を参考に、災害時の避難行動を確認しておきましょう。



<砂川市防災ハザードマップ>

ハザードマップは市ホームページおよびカタログポケットで公開していますが、必要な方は防災対策係（3階33番窓口、TEL 74-8765）へお問い合わせください。



市 HP



カタログポケット

非常時の持ち出し品、備蓄品を準備しましょう



実際に確認してみよう！

<input type="checkbox"/> 水 ※最低3日分、できれば1週間分	<input type="checkbox"/> 懐中電灯 ※手動充電式が便利	<input type="checkbox"/> ブランケット・毛布
<input type="checkbox"/> 食品（アルファ米、レトルト食品、ビスケット、チョコ、乾パンなど） ※最低3日分、できれば1週間分	<input type="checkbox"/> 携帯ラジオ ※手動充電式が便利	<input type="checkbox"/> 洗面用具・タオル
<input type="checkbox"/> 防災用ヘルメット・ずきん	<input type="checkbox"/> 予備電池・モバイルバッテリー	<input type="checkbox"/> 歯ブラシ・歯磨き粉
<input type="checkbox"/> 衣類・下着	<input type="checkbox"/> マッチ・ろうそく	<input type="checkbox"/> ペン・ノート
<input type="checkbox"/> 雨具・防寒具	<input type="checkbox"/> 救急用品（ばんそうこう、包帯、消毒液、常備薬など）	<input type="checkbox"/> マスク
<input type="checkbox"/> 軍手	<input type="checkbox"/> 使い捨てカイロ	<input type="checkbox"/> 手指消毒用アルコール
<input type="checkbox"/> 体温計	<input type="checkbox"/> ウェットティッシュ	<input type="checkbox"/> 石けん・ハンドソープ
<input type="checkbox"/> 生活用品（ティッシュ、トイレトペーパー、ラップ、ゴミ袋、ポリタンク、携帯用トイレなど）		
<input type="checkbox"/> 貴重品（通帳、現金（小銭も）、本人確認書類、病院の診察券など）		

<家族構成に応じて必要なもの>

子どもの備え		
<input type="checkbox"/> ミルク（キューブタイプ）	<input type="checkbox"/> 子ども用紙オムツ	<input type="checkbox"/> 抱っこひも
<input type="checkbox"/> 使い捨て哺乳瓶	<input type="checkbox"/> お尻ふき	<input type="checkbox"/> 子どもの靴
<input type="checkbox"/> 離乳食	<input type="checkbox"/> 携帯用お尻洗浄機	
<input type="checkbox"/> 携帯用スプーン・フォーク	<input type="checkbox"/> 首掛けライト	
高齢者の備え		
<input type="checkbox"/> 大人用紙オムツ	<input type="checkbox"/> 介護食	<input type="checkbox"/> デリケートゾーン洗浄剤
<input type="checkbox"/> 杖	<input type="checkbox"/> 入れ歯・洗浄剤	<input type="checkbox"/> 持病の薬
<input type="checkbox"/> 補聴器	<input type="checkbox"/> 吸水パッド	<input type="checkbox"/> お薬手帳のコピー
女性の備え		
<input type="checkbox"/> 生理用品	<input type="checkbox"/> サニタリーショーツ	<input type="checkbox"/> 防犯ブザー・ホイッスル
<input type="checkbox"/> おりものシート	<input type="checkbox"/> 中身の見えないゴミ袋	

災害に備える

— “もしも”のためにできること—

もしも災害が発生したら

☑ 災害の情報を確認しましょう

○砂川市公式LINEアカウントで確認する

気象情報や避難所情報などの防災情報の提供を行っています。
もしもの時に災害から身を守るため、右記 QR コードより友だち追加してください。



砂川市
公式LINEアカウント

○地デジ広報で確認する

スマートフォンやパソコンの操作が得意でない方も、自宅のテレビで災害時の情報などを取得することができます。

1 UHB(チャンネル8)を選択

2 リモコンのdボタンを選択

3 リモコンの黄色ボタンを選択

4 見たい記事を選ぶ

※連動データ放送の場合は黄色ボタンを2回押す必要があります



☑ 避難時のポイント

<台風・大雨編>

- ・非常用持ち出し品の点検をする
- ・指定緊急避難場所までの道順を確認し、避難指示があった場合はあわてず速やかに避難する
- ・避難の前には、必ず火の始末をする
- ・避難の際の持ち物は最小限にして背中に背負うなど、両手が自由に使えるようにする

※忘れ物をした場合でも、取りに戻るの危険ですので絶対にやめましょう

<地震編>

家の中では・・・

- ・頭を保護しながら大きな家具から離れ、丈夫な机の下などに隠れる
- ・あわてて外へ飛び出さない
- ・火元から離れているときは無理に火を消しに行かない
- ・扉を開けて避難路を確保する

運転中は・・・

- ・あわてて急ハンドルや急ブレーキをかけず緩やかに速度を落とす
- ・ハザードランプを点灯して周りの車に注意を促し、道路の左側に停止する

○動きやすい服装、集団での避難

動きやすい服装で、両手は自由になるようにしましょう。靴は運動靴にしましょう。長靴は水が入ると重くなり、スリッパ・サンダルは脱げやすいため危険です。また、単独での避難は、思わぬ事態にあった時に危険ですので、隣近所に声をかけて集団での避難を心がけましょう。

○水害時は徒歩で避難

車は約30cmの浸水で走行困難になったり、水圧で扉が開かなくなることがあるので大変危険です。特別な場合を除き、徒歩での避難を心がけ、できるだけ浸水していない場所を歩きましょう。

※建物の倒壊の危険がなく周囲が浸水した場合には、避難するよりも自宅の2階以上や付近のビルにとどまる方が安全な時もあります。周辺の状況を確認して避難しましょう。

自主防災組織を設立しませんか？

自主防災組織とは

「自分たちの地域は自分たちで守る」という自覚と連帯感に基づき、自主的に結成する組織（町内会）であり、災害による被害を予防、軽減するための活動を行う組織です。役割ごとに班に分かれ、災害時だけでなく平常時にも器具点検、広報活動など災害に備えて活動を行っています。

災害の規模によっては、道路の寸断や救助要請の集中により、消防、自衛隊などの公共防災機関による救助・援助が期待できないことがあります。このような事態が発生したときには、それぞれの地域で日頃から顔を合わせている近隣の人が協力して防災活動を展開し、お互いの命や財産を守らなければなりません。また、地域の避難行動要支援者に救助の手を差し伸べることができるのは、身近にいる地域の皆さんです。

市内の自主防災組織（令和6年5月現在 結成順）

新石山団地町内会、緑ヶ丘町内会、豊栄町内会、石山団地町内会、月見丘町内会、新晴見町内会、共親町内会、東雲町内会、あかね団地町内会、宮川町内会、新町町内会、千歳第1町内会、北光団地町内会

○自主防災組織を結成するには

町内会の役員会などで、自主防災組織の必要性を検討し結成について話し合いをします。自主防災組織の説明が必要な場合は、防災対策係（Tel 74-8765）へお問い合わせください。

また、結成することを砂川消防署に伝える必要があります。詳細は砂川消防署予防課広報係（Tel 54-2196）へお問い合わせください。

○自主防災組織設立支援割

市内の町内会を対象とした地域コミュニティ活動支援補助金があり、自主防災組織の設立に必要な防災資機材の経費に対し、補助率100%で2万円を上限として交付されます。なお、自主防災組織設立支援割は1町内会1度までとなっています。詳細は市ホームページを確認または協働推進係（Tel 74-8765）へお問い合わせください。



市 HP

もしものときのために、
自分たちでできること



東雲町内会長

おおはら むつお
大原 睦生 さん

東雲町内会では、平成28年に自主防災組織を設立して以来、日頃から災害に備えさまざまな活動をしています。平常時には、定期的な防災や救命救急などの講習を開催しているほか、町内会館に保管している備蓄品の点検、補充を行っています。非常食にはカロリー量を重視したものが多くですが、栄養バランスを考えていろいろな種類の非常食を購入するなど、地域の人の意見を聞きながら常に工夫しています。他にも、東雲町内会独自の取り組み

として、地域の人の氏名、世帯情報、電話番号などの情報をまとめた「防災カード」を作成し、災害時にすぐ連絡を取れる体制を整えています。地域の防災力を高めるためには、日頃から地域の人と交流して、気軽に声を掛け合える関係を作っておくことが大切です。公的機関による「公助」に頼るだけでなく、地域が主体となってできることを考え、実践していくことが自分たちの命を守ることにつながるのだと思います。

24時間365日、まちの安全のために

もしも災害が発生したとき、消防隊員たちは一秒でも早く要救助者のもとに駆け付けられるよう日々訓練を重ね、まちの安全を守り続けています。



砂川消防署警防課消防係

なかむら たいすけ
中村 太亮 さん

いつも頼られる存在であるために

夏から秋にかけては、台風に伴う豪雨などの影響により水害の発生が予想されるため、水難救助訓練、土のう積み上げ訓練に力を入れています。また、地震などの大規模災害が発生した際には、限られた人員の中で素早く対応できるよう、隊員一人一人の技術向上はもちろん、チームワークを発揮することが何よりも重要です。

近年では地震の発生や豪雨による災害が巨大化・長期化するなど大規模な自然災害が全国各地で増えています。あらゆる事態に対応するために、他市町村の取り組み事例を参考にするなど日頃から情報収集は欠かせません。

住民の皆さんにとっていつも頼りになる存在であるために、これからも日々訓練に励んでいきます。



飯澤市長

全国防災・危機管理トップセミナーに参加してきました

6月12日に東京都で開催された「全国防災・危機管理トップセミナー」に参加してきました。セミナーでは、防災対策の専門家による危機管理対応の講話のほか、能登半島地震を経験した輪島市長、珠洲市長による被災地の被害状況についての講演が行われ、あらためてトップとして住民の安全を確保する責任と覚悟を痛感いたしました。

